Rokko Catholic Church Bulletin

六甲カトリック教会
教　会　報

2022
6
No.606

六甲教会の祈りを生きていこう

主任司祭　　英　隆一朗

この教会に来て、ようやく少しずつ慣れてきました。もともと地元出身なので、関西弁を普通にしゃべれるのがとても楽ですね。ホームグラウンドという感じです。

ところで、主任司祭として取り組んでいきたいのは、「六甲教会の祈り」を実現していくことです。この中で謳われていることを少しずつ実践しながら、私たちの共同体に霊的実りが結ばれることを、第一目標として、祈り求め、活動していくつもりです。どうぞよろしくお願いします。

実際のところ、コロナのおかげでこの２年間世界中の教会が著しく活動を制限されてきました。これから感染状況を見ながら、少しずつ再開に向けて歩んでいきたいです。その際、単に過去に戻るのではなく、自分たちの活動がどのような意味で「六甲教会の祈り」を実現しているのかを意識してもらいたいです。イベントの再開においても、この祈りの実践を意識していきましょう。

「六甲教会の祈り」の第１段落には、「ロヨラの聖イグナチオの霊性」や、「何が神の御旨であるかを識別し」とあります。これを実現するためには、まず一人ひとりがみ旨を識別できる力を養っていくことが必要でしょう。昨年から今年の７月の終わりまで、「イグナチオの年」を全イエズス会でお祝いしています。今年度は、イグナチオの霊性やイエズス会の現代のあり方を学ぶ機会を設けるつもりです。皆さん一人ひとりがイグナチオについて学び、自ら識別する力を養っていかれることを希望しています。

私自身は、霊性研修会を始めることにしました。よかったらご参加ください。教会報でも、このテーマに関する連載を中村神父にお願いしています。また、オンラインを通して、イグナチオや『霊操』（イグナチオが書いた本で、イグナチオ的霊性を深める本）を学ぶこともできます。書籍なども紹介していくつもりです。

第２段落には、「真の愛と深い交わりを求めて」、「助け合う共同体」となるように祈り求めます。残念ながら、２年間のコロナの影響で、逆に、互いのつながりが薄くなっているように見受けられます。

コロナの感染状況にもよりますが、少しずつ共同体的なつながりを回復していきたいです。主日ミサの後、イグナチオホールなどでおしゃべりすることを認めます。必要がある場合、軽食をとることも可能です（大がかりな会食はまだ無理ですが）。その他、人と交わりをもつ活動も徐々に復活してください。

高齢者の方々の中には、教会に来ることが難しい人がおられるでしょう。そのような方々に対して、中村神父を派遣することにしました。神父が戸別訪問をして、ご聖体の拝領・ゆるしの秘跡や病者の塗油を直接受けることができるようにします。希望者は事務室（あるいは地区長やブロック長）にご連絡ください。急な訪問はまだ無理な方々にも、これから何らかの接触をもっていきたいです。コロナウイルスによる感染症という未曾有の危機をくぐり抜けてきました。まだ収束していませんが、コロナ危機に負けないで、私たちが今できることを少しずつ積み上げていきましょう。

2022年度第1回小教区評議会議事録（要約）

日時　2022年5月8日　13:00～14:50　場所　第1・第2会議室
出席者　英主任司祭、中村神父、宗行議長、三垣副議長　大上・多田両書記　蛭田財務部・三日月会、中西典礼部、松平宣教・養成部、井川(伸)社会活動部、本下施設管理部、詫広報部、吉村教会学校、藤井婦人会 各コーディネータ　井川(直)地区会代表　事務所 大鶴

主任司祭の挨拶

1.「六甲教会の祈り」を教会の方針とする
2.六甲教会の印象としては組織化がよく機能していると思うが、さらに信徒の高齢化問題、信徒の国際的多様化に積極的に対応していきたい。いっぽう次の世代を担う若者の役割も大切だ。2023年8月のリスボン「世界青年の日」へのアプローチを目指したい。
3.コロナ態勢であっても社会に合わせ教区の方針を踏まえながら教会活動を活発にしていき「出向いて行く教会」を専門部会、信徒会に相談しながら推進したい。
4.イグナチオ・ロヨラの霊性を教会の精神的基盤としたい。その霊性を学ぶ勉強会を開きたい。イエズス会として「イグナチオ年」がことしの7月まである。また2019年～2029年の10年間におけるイエズス会使徒職全体の方向性が決められた。これについても勉強と実践、さらにエコロジーについても取り組みを高めたい。随時教会報でもとりあげる。
5.「出向いて行く教会」を推進するためSNSなど外への発信を整えていきたい。宣教部と広報部で体制を整えてほしい。
6.ミサ典礼文の一部改訂が本年11月27日（待降節第1主日）から実施される。典礼部が中心になって事前の準備、勉強会などが必要である。
6.大きなテーマは主任司祭と信徒がよく相談する。細かいところは信徒の自主性に任せる。
7.施設のメンテナンスは予算と相談しながら進める。

協議事項

（1）新年度評議会各部各会の方針

三日月会
　コロナ休会が続いてきたが9月の総会は開催したい

宣教・養成部
　黙想会を実施　春5月21日（土）　秋10月8日（土）
　平和旬間に講演会を実施

典礼部
　ミサ典礼文の改訂に伴い、教区典礼研修会がある。（10月23日）
　典礼奉仕者の集いは9月11日（日）　に実施
　こどもミサの復活を期待　復活させる(主任司祭)

地区会
　5月29日に地区役員会を開き、コロナ状況に合わせた教会行事への対応を協議する

社会活動部
　第2土曜日は炊き出し、学習会は9月18日に予定
　手広く多岐にわたって活動していく

婦人会
　壮年会と合同で教会全体の「遠足」を企画

教会学校
　5月29日の遠足を実施の方向で準備している
　侍者練成会を6月26日と7月3日に予定

施設管理部
　4月にエアコンの入替え一部実施　ベルタワーの十字架の傾きを本格修理する。庭木の整備、女子トイレの修復など問題個所あり。AEDの設置、Wi-Fi環境の整備、音響機器の充実など

広報部
　教会報の編集方針としてイエズス会、イグナチオ・ロヨラの精神を学ぶ紙面作りを強めていく

財務部
　6月に財務報告会を行う。来年度は信徒総会実施を視野に入れる(主任司祭)

（２）今年度行事予定の特記事項
・5 月に予定していた受洗者・転入者への説明会は 6 月 26 日に行う。
・手話通訳付きミサを拡充していく
・納涼の夕べ、チャリティーバザーについてはバザーだけでも実施を検討。
（３）今年度平和旬間行事
8 月 6 日（土）講師ビスカルド篤子さん 難民問題をテーマに
15:30～17:30　講演会　そのあと 18:00 のミサにつなげる
さらにミサ後茶話会を開く(納涼の夕べの代替)

報告事項
・3 月 13 日の神戸地区宣教司牧評議会　特記事項なし
・アルフレド神父様への餞別金は評議会予備費から支出した。
次回 第 2 回小教区評議会　7 月 10 日（日）13 時より第１・２会議室　　以　上

黙想会「六甲教会の祈り」を祈る　　指導　英隆一朗 主任司祭

5 月 21 日(土) 15 時より、六甲教会主聖堂において、英主任司祭の指導のもと、黙想会が行われた。約 80 人の会衆が集う中、英神父は「六甲教会の祈り」の内容を大きく３つに分けて、それぞれを考えるヒントとなる聖書の部分を示し、黙想の手がかりとなる説教をされた。その後各自黙想に入り、堂内は静寂に包まれた。

第 1 講話：「私たち六甲共同体がロヨラの聖イグナチオの霊性を生き、『すべてを吟味して』何が神の御旨であるかを識別し、『すべてにおいて神を見出す』ことができるように祈る心を持たせて下さい。」
◆狭い門（マタイ 7:13-14）
◆実によって木を知る（マタイ 7:15-20）
・このコロナ禍は、人類の活動にストップをかけ、識別の時を与えられた。この 2 年間の苦しみ喜びを思い返し、私たちにとって命に通じる狭い門とは何かを考えて黙想した。

第 2 講話：「私たちがキリスト者として、真の愛と深い交わりを求めて、互いに理解し合い、愛し合い、赦し合い、助け合う共同体となることができますように」／「私たち一人ひとりがおかれている場所で、知らずに福音を求めている人、助けを必要としている人、困難な状況に置かれている人、隅に追いやられている人に手を差しのべて、『共に喜び、共に泣く人』としてください。」
◆信者の生活（使徒言行録 2:43-47）
・共同体にとって大切なことは、そばにいて顔を合わせること、ともに食事をすること・・。つまり人々が“濃厚接触”することが求められる。コロナ解除となったら、これをどのように回復していくかが課題となる。コロナでできたこと、できなかったことを考えて黙想に入った。

第 3 講話：「地域・文化・言語・社会的立場の枠をこえて、司祭・修道者・信徒が一致し、共に働き、教皇フランシスコが求めている『出向いていく教会』を実現する勇気をお与えください。」／「私たちはイエスの弟子であり、遣わされたものであることに気づき、心にまかれた喜びの福音を多くの人に伝えることができますように。」
◆十二人を派遣する（マタイ 10:5-14）
・教会とは人々を迎える立場だが、2019 年フランシスコ教皇が日本の広島・長崎で祈りを捧げ、自らが出向いていく教会を体現した。殻に閉じ籠れば病み、外に出向いてゆけばリスクを伴い傷つくが、何もしないよりリスクを伴う行き方をとるべき。私たちは、今後どういう助け合いを望むか、また望まないのかを考えてみる。過去に経験したつながりでどういうものがよかったか、その体験を具体的に考えて黙想した。

オンライン祈りの集い

～世界平和のために祈る～

シナピスでは、毎月第二木曜日に、「祈りの集い」を開催しています。
Zoom 開催ですので、どなたでも、どこでも、5分だけでも、ぜひ、ご参加ください。

☆彡☆彡☆彡☆彡☆彡

世界中で、疫病、自然災害、そして戦争によっていのちを落とす人が絶えません。
そんななか、現地で、現場で、人のいのちを救うために働く人びとがたくさんいます。
いのちの危機にある人、いのちを救うために働く人へ思いを寄せ、
私たちは心を一つにして祈ります。

日　　時　　：**6月9日 20:30～　『沖縄のための祈り』**
開催方法　　：Zoom（100 名まで参加可能です）
URL：https://us06web.zoom.us/j/7610712034?pwd=bFM5Qkg2WTc5TUFTNGJXbHB6Y2VHUT09
ミーティング ID　　：761 071 2034　パスコード：123456

今月号から始まった「私の好きな聖書の言葉」　初回は井川伸子さんからいただきました。

私の好きな聖書の言葉（第１回）

わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる

イザヤ書 55：８-11

これは紀元前６世紀バビロニアで捕囚生活を送り絶望に陥っていたイスラエルの民に希望を与え、神への信頼をより確かなものにした主のみ言葉です。わたしたちも現代社会において、お金の心配、病気、人間関係など、様々な心配事に囚われているかもしれません。こうした思い煩いがあっても、神様のご計画はわたしたち人間の思いをはるかに超えて、それは空しく終わることなく、時がくれば実現されることを約束されています。まだまだ弱い私ですが、良きも悪きもすべて神のご計画の中にあることを受け止め、このみ言葉が私の信仰生活の支えになっています。　井川伸子

今月の聖人　聖バルナバ

宣教者パウロのよき同伴者としてのバルナバについては詳しいことはわかっていません。イエスの死後、まだ弟子たちが途方に暮れている頃の初代教会黎明期、パウロを補佐し、パウロとともに派遣の道を探ったのがバルナバ（慰めの子という意味）です。記念日は６月 11 日。バルナバはキプロスの生まれ。財産を投げ出してイエスの弟子に加わり、パウロと行動を共にしますが、それは最初の宣教旅行だけで次の宣教には、同伴者としてバルナバの推薦するマルコと呼ばれるヨハネをパウロが拒否し意見が衝突します。結局二人は別々の行動をとり、バルナバは故郷キプロスへマルコを連れて帰ってしまいます。（使徒言行録 15：37-39）パウロは別の同伴者を選び出発します。パウロはペトロを非難したり（ガラテヤ 2-11）はげしい性格で独善的な面もあったようなので、バルナバもかなり苦労したのではないかと推察されます。画像はバルナバのイコンで、ネオ・ビザンチン時代（19 世紀ごろ）のものらしいと言われています。（詫 洋一 記）

次回から「今月の聖人」はイエズス会の聖人を紹介していきます。

2022 年度

カトリック入門・養成講座・聖書研究会などのご案内

曜日	週	開始時刻	クラス名	対象	担当者	開催場所
日	第1	11:15	信仰生活を楽しむ	受洗後数年以内の方	シスター窪	第3会議室
	第2・4	11:15	キリスト教入門講座	入門志願者のみ（紹介者同席可）	増井神父	第4会議室
火	毎週	10:00	旧約聖書	どなたでも	中村神父	第3会議室
水	毎週	14:00	ルカ福音書	どなたでも	中村神父	第3会議室
	第1・3	10:30	福音のよろこびを生きる	どなたでも	こいずみゆり	第3会議室
木	毎週	10：30	カトリック入門講座	未信者	英神父	第4会議室
	第1・3	19:00	聖書による信仰入門	どなたでも	吉村信夫	信徒会館
金	毎週	19:00	カトリック入門講座	未信者	英神父	第4会議室
土	第1～4	14:30	教会学校	小学生	リーダー	信徒会館
	第4	10:00	霊性研修会	信徒	英神父	ｲｸﾞﾅﾁｵﾎｰﾙ

英神父の土曜日の霊性研修会は、6月より開講致します。
新型コロナウィルスや天候などにより、休講になる場合があります。事前にご確認ください。
聖書を原語（ギリシャ語、ヘブライ語）、英語で読む、希望者は個別に中村神父にご相談ください。

定例的に行われる集い

開催日		開始時刻	集い名	対象	担当者	開催場所
（前期）	6月11・18・25 7月2・9・16・23・30日	17:30	結婚準備セミナー（8回シリーズ）	カトリック教会で結婚式を望む人	セミナースタッフ	第1会議室
（後期）	2023年2月4・11・18・25 3月4・11・18・25日	17:30	結婚準備セミナー（8回シリーズ）	カトリック教会で結婚式を望む人	セミナースタッフ	第1会議室

「三日月会例会とミサ」「幼児を持つ親の集い」については、活動が再開されましたらお知らせ致します。

六甲教会あれこれ探訪

教会報では「新着図書」のお知らせを、その都度掲載していますが、図書室を実際に利用されたことはありますか。図書室は、信徒会館二階、階段を上がってすぐ左手です。カトリック関連の本を中心にして、素晴らしい蔵書が所狭しと並んでいます。また、窓の外は緑が広がり、とても静かな空間です。六甲教会信徒であれば、その場で閲覧するだけでなく、貸出手続きを経て借りて帰ることのできる本もたくさんあります。手続きは、貸出ノートに書くだけ。小さいお子さんのための絵本やスペースもあります。ぜひ一度覗いてみてください。

写真は蔵書（予定）の一例と室内風景

＿最近読んだ本＿

メルケルさんの信仰と行動

曽我 邦子

心にある信仰をどのようにして行動へと具体化するのかという問いは、常に私の心の中にあります。したがって、膨大な数の難民を自国内での強力な反対にも抗して受け入れ続けたドイツ連邦共和国のアンゲラ・メルケル前首相の信仰と行動については以前から関心を持っていました。そして、3 年前にこの本との出会いがありました。

『わたしの信仰　キリスト者として行動する』
アンゲラ・メルケル著　フォルカー・レジング（編）　松永美穂（訳）

本書にはメルケルさんがキリスト教の団体や機構などの記念式典で話された 16 編の講演録が載せられています。難民政策については最後の一編『自律要求と自立支援』だけですが、諸問題が生じた時（期）と場に沿って現状を分析し、しかるべき「問い」を投げかけ、それを解く鍵を自らの信仰・聖書の中に求めるというメルケルさんの問題解決のプロセスが読み取れます。そして、その根底にはキリスト者としての「人の尊厳」、「正義」、「自由」の尊重があると思われます。これらについてメルケルさんは次のように考えられています。

神が造られた「人の尊厳」は不可侵である。同時に同じ神の被造物として互いにあらゆる他（人）を尊重しなければならない。「正義」は神と人間との共同体に対する忠誠心であり、それゆえに人々は互いに関わり合い連帯を保たねばならない。さらに、人は「自由」な選択をする責任があり、また他（人）の自由を侵さない責任も担っている。

この考えを基にメルケルさんの難民政策をたどると、祖国で自らの存在そのものが脅かされ、「人の尊厳」を保てなくなった人々を救うため、そして神と人との地球共同体の連帯を図るべき「正義」を守るために難民を受け入れました。その後、移住者には受け入れた法治国家の法律に従う自律の責任を、受け入れた自国民には移住者が自らの労働で自立し、自己実現を果たすために必要な支援を提供する責任を担うという人の「自由」に基づく『自律要求と自立支援』の具体的な行動を促す政策を進められたことが分かります。
「人の尊厳」、「正義」、「自由」の尊重は私たちの行動にも強い支えになります。

その他、身近なテーマでは、「家族とは両親が子どもに対して、子供が両親にたいして人生の始めから終わりまでを担う責任を意味する」、または「宗教教育は私たちの人生に関わるだけでなく、・・・神の被造物としての私たちの人生の大きな関連性を扱う」などについても語られています。

以上は私が読み取ったことの一部です。他の方々がどのように読まれるのかにも興味があるので、パンデミックが収束したら読書会でも開いて、いろいろなお考えを分かち合えればと思います。

趣味百景

再び歌を

沖 裕子

もう四十年以上も前のこと、私の妹は幼児二人を残して二十九歳の誕生日に癌で逝った。母として歩み始めたばかりの命を断たれる無念はいかばかりであったろう。召されて主の御元にいると信じつつも悲しみと喪失感から私は何年も立ち直れずにいた。この思いを何とかしたいと考え、近くの会館の短歌入門講座を思い切って訪ね入会した。それが私と短歌との出会いであった。三年の受講期間中、指を折りながら多くの駄作を生んだ。その内に七年祭が巡ってきたのでその中から二首を選び短冊にしたため、妹の墓前に花と共に活けた。かがんで祈ろうと手を合わせた瞬間、体内を暖かいものが流れ、胸底に沈んでいた澱がゆっくりと溶解していくような不思議な感覚にしばし包まれた。鎮魂というが妹への思いが同時に私自身の魂をも鎮め癒してくれたのだと気づかされた。短歌は私を苦しみから解放してくれたのだ。年月を要したが、この体験により気持ちに区切りがついた私はその後短歌から遠ざかっていった。

ところが 2018 年の夏、教皇様のご指示で「焼き場に立つ少年」のカードが全信徒に配られた。これが呼び水となり、また歌を始めてみようかと心が動いた。というのもこの写真は以前から重いメッセージを投げかけていると感じていたからである。

それにしても戦争の世紀といわれた二十世紀が終わったというのに現在もロシアとウクライナが交戦中でまことに残念なことだ。

世の平和を願いながらこれからの私は琴線に触れる周辺の大小のものごとを掬いあげて乏しい語彙を紡ぎつないで、少しずつ歌を詠んでいければ幸いなことだと思っている。

おちこちにどんぐり散らばる散歩道
弾丸飛び交うキエフに今日も
東に陽西に淡き月見ゆる朝
疾く来よ春よウクライナの地に

炊き出しへのお誘い

社会活動部

毎月第 2 土曜日は六甲教会の炊き出し当番の日だ。毎回ボランティアで参加される方は、ほぼ決まったメンバーであるが、最近 40 代の男性が参加され、シニアのおばさんたちも喜んでいる。　先月はお料理好きの中村神父さまも参加され、中央教会の中庭は一段と活気づいた。メニューは今回はカレーライス。11 時半までにカレーのルーを作らなければならないのだが、だいぶ早く終わり、配食場所の小野浜グランドへの出発までだいぶ時間が余ったので、外のテーブルを囲んでみんなで雑談。今のウクライナ問題からロシア、ウクライナの宗教のこと、カトリックとの違いなどを中村神父さまからいろいろと教えていただき、この雑談はかなり有意義だった。社会活動部はこんな感じで活動を通してお互いに親しくなる共同体の場でもある。高齢化の中、少しでも若い方が入ってくれたら嬉しい。今のメンバーも何年続けられるだろうか。若い方、大歓迎です。一度覗いてみてください。

◆ 社会活動部よりお知らせとお願い

6月 1日 （水） 10 時　手芸の集い（第 1、第 2 会議室） どなたでも参加できます。
6月11日 （土） 10 時　社会活動神戸センター外の台所 （神戸中央教会敷地内）
小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話相手や配食だけでも OK です。

「手話ミサ」

5月15日11時半からの主日のミサでは手話通訳が行われた。手話通訳者は六甲教会の信徒で、「大阪教区聴覚障がい者ボランティア会」のメンバーとして活動されている方。六甲教会には聾者の方が複数おられ、当日はほかからもお二人が共にミサに与った。信徒であればごミサに与れるのは当然でも、聴覚にハンディがあるために、なかなか参加がかなわなかったごミサが、今回手話通訳付きで実現できたのは、自身も手話のできる英神父さまが打診を受けて快諾され、実施に向けて典礼部や所属地区長らが細やかに連携したことによる。お説教の中で英神父さまは「栄光」の手話について、両手で下から上へ幕が上がるような形を示された。これは『幕の向こう側に隠されている栄光が現れることを意味していて、隠されているからこそ、弱い人にこそ栄光が見出される』とのこと。そしてそれは私たちが互いに愛し合い周りの人の弱さをいつくしむ、その恵みが私たちに与えられていることを表しているのだとされた。「六甲教会の祈り」が当教会の方針となったいま「…助けを必要としている人、困難な状況に置かれている人…に手を差しのべて『共に喜び、共に泣く人』としてください」を実践していくための、ひとつの大きな課題が与えられたことになる。手話ミサは、これからも、共に祈る仲間との日常になることが望まれる。

手話通訳者の手の動きを注視する皆さん。
英神父のお説教では通訳者が手を止め、皆で英神父の手話に見入る場面もあった。

大上尚子 記

教会のご近所訪問

神戸大学キャンパス

教会から六甲ケーブルのほうへ登っていくと、くねったバス道に巻かれたような神戸大学のキャンパスが迫ってきます。坂を上り詰めると正門、さらに広い石段を上がると伝統の旧制神戸商大の風格ある建物が緑の樹々のなかにゆったりと並んでいます。構内の「うりボーロード」と名付けられた小径の先には馬術部の馬場と厩舎。六甲山の中腹に広大な敷地が広がります。山のふもとの大学なので自然がいっぱいです。このあたりは大学の一部で、六甲台第１・第２キャンパス、ということになります。その一角にまためずらしい建物があります。俳人山口誓子の旧居を復元した数寄屋造りの和風建築です。水屋には茶道具などが揃い、留学生などに日本文化を味わってもらえる役割も果たしています。見学は火曜日と木曜日のみ。春には桜の満開が楽しめ、犬を連れた散歩者もちらほら。初夏の候、広い構内を散策するのも一興です。

写真は大学正門と山口誓子記念館

※ うりボー（うり坊）はイノシシの子どもの時期の呼び名

編 集 部 から

英 新主任司祭のご意向で、教会報も少し変わっていきます。六甲教会はイエズス会の教会なので、創始者イグナチオ・ロヨラの霊性を常に意識すべし、というわけです。巻頭言には主任司祭のメッセージ、そして中村神父さまには従来の「六甲春秋」に代わり「イグナチオ・ロヨラの息吹」というタイトルで紙上講座を開いていただきます。ロヨラの霊性は六甲教会のバックボーン。新たな刺激と学びを届ける教会報として努めます。どうぞご期待下さい。

イグナチオ・ロヨラの息吹〔1〕

宮廷に仕える騎士として

主任である英神父の依頼によって、イエズス会の創立者について会員として習ったこと読んだことを、皆さんに分かりやすく書き記すことになった。自分たちには当然の事柄も、必ずしも知識として自明ではないこともあろう。教会の歩みを多彩に彩る何千何万の聖人たちの中で、イグナチオは決して大物でも有名でもないかもしれない。しかし彼が創立したイエズス会の会員、それも極東の日本人として感じる事、知っている事柄などを書いてみよう。そこで皆さんへの御願いは、もし一読されて分かり難いことやもっと詳しく説明してもらいたいことがあれば、遠慮なく言って頂ければ、いくらか補足したり書き加えたりできて好都合と考えている。これを機会に、思うところを遠慮なく互いに分かち合えれば素晴らしい。

彼は 1491 年に、バスク地方に在るロヨラ城主の 13 番目の末子として生まれた。洗礼名のイグナチオは、2 世紀のアンチオケの殉教者にあやかる願いがこめられているのだろう。16 歳の時から、カスティリヤ地方にあるアレパロ城主の宮廷で、小姓のような任務に就き宮廷生活：武芸、乗馬、踊り、遊興にふけり、高位の令嬢の寵愛を得る騎士道を歩むべく努めていたようだ。次いでナバラ侯爵に仕えたが、1521 年に一万二千人のフランス軍は、ナバラの首都・パンプローナに攻め込んだ。彼は高台にある城郭に立て籠り、勇ましく命がけの抵抗を試みたが、敵の砲弾に両足を打ち砕かれた。彼が倒れ伏すことで戦闘は終わりをつげ、敵軍の手で送り返されたのである。

寝台に独り伏し、骨を削る痛ましい手術に耐えながら、神の不思議な摂理の導きが始まったと云えよう。当初は華やかな宮廷生活に復帰する望みに駆られ、憧れの貴婦人に仕える夢に魅かれながら療養に励んだ。しかし手近にあった書物は、血わき肉おどる武勇伝ではなく、「キリスト伝」と「聖人の華」という信心書であった。暇にまかせて読み進むうちに、不思議な感興に襲われた。彼の心中には相反する望みが沸き起こり、一方で宮廷での現世的な名誉や称賛への焼けるような飢え渇き、他方で聖人たちと競い合って王である神に仕える熱い願い求めに引裂かれたのである。この二つの欲求に絶えず駆り立てられ突き動かされながら、後になって霊操という祈り方の指導書の中で、霊魂の動き：慰めとスサミを識別する方法を見出したのであろう。今やイグナチオは生まれ変わり、罪と虚栄の死の床から勇ましく立ち上がった。ここに改悛者としての巡礼の長い旅路がはじまった。彼は何処に行くのか、何をするつもりなのか。「神よ、私のために清い心を創り、新しい正しい霊を与えてください。救いの喜びを返し、自由の霊を持って支えてください」。　　中村健三　合掌

【2022 年 6 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎灘北 1・北, 三田	
5	6	7	8	9	10	11
聖霊降臨の主日 祈りと音楽の集い 14:30	教会の母 聖マリア				◎灘北 2・阪神	炊き出し
12	13	14	15	16	17	18
三位一体の主日 財務報告会 （第 2 グループ）					◎灘南・神戸西	
19	20	21	22	23	24	25
キリストの聖体 財務報告会 （第 1 グループ）				洗礼者ヨハネの誕生	イエスのみ心 ミサ 7:00 10:00 ◎灘西・中央	
26	27	28	29	30		
年間第 13 主日 聖ペテロ使徒座への献金 新受洗者・転入者説明会			聖ペテロ 聖パウロ 使徒			

◎は掃除当番地区です。

次回 7 月号の発行は 7 月 2 日（土）です。原稿は毎月 15 日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部
http://www.rokko-catholic.jp

六甲カトリック教会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電話　078-851-2846
FAX　078-851-9023
E メール renraku@rokko-catholic.jp

発行責任者　英隆一朗
編　　集　広 報 部